

1 学校経営ビジョン 令和7年度スローガン「築け 地域との新たなつながり 拓け 学校の可能性 照らせ 生徒の未来」 コミュニティ・スクールとして地域資源を学びに取り入れ、総合学科の特色を活かした教育を実践し、社会や地域に貢献できる人材の育成を目指す						
2 目指す学校像						
<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒一人ひとりに寄り添い、全職員で支援する体制の整った学校 ○ 新しい教育に挑戦し、学力の定着を図り、生徒の望む進路を実現できる学校 ○ 地域に開かれ、地域に愛され、地域の生徒が通いたいと望む学校 						
3 本年度の重点目標 (1) 主体的に地域の核となる生徒の育成 (2) 指導力・専門性の向上 (3) 魅力ある学校づくり						
重点目標	具体的取組	評価項目	具体的取組又は達成状況	自己評価	評価	学校運営協議会評価 及び 意見
主体的に地域の核となる生徒の育成	生徒理解と支援のための教育相談体制の充実	いじめ・不登校対策委員会	・定例(月次)および、緊急・懸念事項発生時の臨時開催 ・管理職、年次主任、担任及びSC・SSWによる情報共有 ・組織的な早期対応による生徒支援	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価が低いようです。次年度に向けた対策を検討していただきたい。 ・学校運営協議会における「熟議」が効果的になされている。 ・教育相談体制が定例的に機能し、全職員など生徒理解を深める取り組みが継続している。 ・読書活動、人権学習、挨拶運動など、生活習慣づくりに向けた取り組みが幅広く実施されている。 ・一方で、生活習慣・美化活動の項目の評価が相対的に低く、意識の浸透や生徒主体の取組強化が課題と考える。 ・PTAの活動の一環で清掃に参加しましたが子供たちの意識の低さを感じましたのでもう少し指導していただきたいと思ひます。 ・正面玄関などもう少しきれいに。(入り口は学校の顔、気持ちよく玄関あけられるように) ・障がい者トイレ等きれいにしたら、気持ちよく使えるのでは。 ・自己評価「2」が多い様に思われます。辛口な自己評価なのかもと考えましたが、「3」に近づけられるといいなあとと思ったところです。今後に期待します。
		教育相談週間	・各学期初めに十分な時間を確保し、全員面談を実施 ・生徒の不安や悩みの早期把握と迅速な組織的対応			
		人権学習	・1年次4回、2年次2回、3年次2回実施し、外部講師も招聘			
	読書活動の推進	朝の読書	・毎朝10分間の読書を実施 ・絵本の読み聞かせを担当・図書委員(生徒)により実施	3		
	生活習慣の確立支援	規範意識の醸成	・学期始めや学期終わり等には年次集会を開催し、容儀指導を実施 ・朝のSHR前に「立腰指導」を実施 ・PTAや生徒による朝の挨拶運動を実施 ・職員による遅刻指導状況を記録し、データで職員に共有	2		
美化意識の高揚	部活動生の朝清掃 清掃指導の徹底	・職員有志も含め、正門で毎朝実施 ・全ての清掃区域に職員を配置し、率先垂範で生徒と共に活動 ・美化委員会が担当生徒のプレートをつくり各清掃場所に設置	2			
指導力・専門性の向上	基礎学力の定着指導	「授業の受け方5原則」	・教室掲示による周知 ・1年次においては、入学オリエンテーションで周知 ・PTA 総会での周知	3	3.8	<ul style="list-style-type: none"> ・検定合格、資格取得及び進路において目標達成に向けた努力が見られ感謝します。 ・「Honjo 学」やGTZなど、本校独自の学習支援に一定の成果が出ており、学力向上への取り組みは評価でき、資格取得や検定合格者数が増加し、指導体制の強化が成果に表れている。今後は、資格を生かしたAO入試での大学進学が増加することを期待している。そのためには、1年次より計画的な戦略を立てることが必要であると考える。 ・系列の専門性については、幅広い学習内容も必要ではあるが、教員の負担感が増加しているのではないかと考える。足し算方式ではなく、核となる資質能力の向上のために、引き算方式も考慮し、教育課程については、毎年評価・改善が必要ではないか。 ・就職率・進学率ともに素晴らしい結果だと思います。 ・検定合格や資格取得状況を今後も合格者を伸ばすことや、進路目標達成率を上げていくことが、「魅力ある学校づくり」の一番の近道だと考えます。
		学校設定科目「Honjo学」GTZ(学力到達ゾーン)	・進路目標に応じた講座を設け、一人ひとりの進路実現を目指す ・基礎力診断テストにおいて、1年次が「数学」、2年次は「英語」が向上傾向であり、1年次においてはA2の生徒もいた ・英数が全員履修でないにも関わらずB3以上の人数を維持 ・1年次はB3以上が2~3%上昇し、学習が身につけてきた			
	系列の専門性の向上	コミュニティ・スクール事業、校外活動等	・地域の教育資源の活用 【FB】ホースセラピー、商品開発(めんま)、焼き菓子の商品化 【BI】学校公認ユーチューバー(Chi-Kis)が綾農家とコラボし、動画制作を依頼され作成中。綾小学校へ出向き、情報モラル講習会を実施 国富町商工会に依頼され、しらたまカード普及をサポート 【LD】保育講座、フラワーアレンジメント講座、歩き方講座	3		
	検定合格・資格取得の充実	検定合格・資格取得状況	・日本農業技術検定 2年生17名(R6:2年生9名)FB ・日本情報処理検定1級合格2名FB ・危険物取扱者丙 5名合格(R6:3名) ・全国高等学校家庭科技術検定1級三冠 2名(R6:3名) ・全国商業高等学校協会4種目1級合格2名 ・全国商業高等学校協会3種目1級合格3名 ・日本商工会議所主催簿記検定2級合格1名 ・日本商工会議所主催簿記検定3級合格8名 ・ITパスポート合格1名 ・漢字検定2級1名(R6:2名)、3級4名(R6:2名)	4		
	進路目標達成	進路目標達成率	・進路決定率98.9%(R7.1月末時点) ・県内就職率80.0%(昨年度97%) ・進学:宮崎公立大学(1)、防衛大学校(1)、宮崎産業経営大学(3) 宮崎国際大学(1)、西日本工業大学(1)、九州女子大(1)、久留米大学(1)ほか	4		
魅力ある学校づくり	学校運営協議会制度の活用	ひなたLABO室活用	・教職員と保護者によるWeb会議 ・学校設定科目「eスポーツ」用PCの整備 ・国富町商工会、国富町社会福祉協議会、国富町婦人会との連携による課題研究の充実や魅力化推進	3	<ul style="list-style-type: none"> ・デュアル実習の協力事業者が多く、生徒においては将来の職業観が選択でき、充実した制度であることを感じます。 ・ボランティア活動への参加が年々増えており、住民からも大変喜ばれております。今後、ボランティア部を立ち上げ、生徒が主体になった取り組みになることで、自主性の向上と活動の継続につながると思ひます。 ・CSとして地域団体との連携が充実しており、課題研究・デュアル実習など地域に根差した学びが確立され、デュアル実習について、事業所の約8割が継続受入を希望している点は、地域からの信頼を示しており高く評価できる。 ・部活動やYouTube活動など、生徒の活躍が地域の認知向上にも寄与している。 ・一方で、HP更新など情報発信の回数は減少傾向にあり、魅力発信の強化が課題である。 ・DXスクールとしての取組については、教員の働き方改革の視点からもさらなる工夫・改善が必要ではないかと考える。例えば、Notebook LMを活用したデータ管理等は効果的ではないか。 ・国際理解教育として、欧米ではなく、シンガポールをターゲットにする活動は、大変効果的であると考える。単なる知識の獲得から、本庄高校で学んだ探究学習の題材として、グローバルな視点をもつために活用することができれば、具体的な比較対象を設定したうえでの探究型PBL学習が実施できるのではないかと考える。 ・特に「ボランティア活動の推進」ではお世話になっております。高校生のマンパワーを今後ともよろしくお願ひいたします。 ・部活動や同好会活動の今後の活性化も期待しています。 	
		課題研究の連携	・進路結果アンケート結果 ・年次にあわせた講座の開設を実施 ・3年次生は、進路実現に向け有効的に活用 ・国立大学に1名、防衛大学校に1名合格 ・アンケートより、8割以上の生徒が「有効性がある」と回答	3		
	デュアルシステムの実践研究	アンケート結果	・デュアル実習の協力事業所約170社。内、今年度協力企業は57社 ・2年次生90名全員参加。実習期間は8日間 ・事後アンケートにおいて、生徒の約95%が「職業選択の役に立つと思う」と回答 ・将来の自分を考える良い機会、相手の立場に立つことの大切さ、忍耐力が身についた等と考える生徒が多かった ・協力事業所の約80%が、「次年度も実習を受け入れたい。または、受け入れても良い」と回答	3		
部活動とボランティア活動の推進	部活動・同好会活動の活性化	加入率の向上:77.8%(R6:69.9%)	・野球部 新人大大会 1勝1敗1分け ・バスケット部 総合体育大会・新人大大会 各ベスト16 ・剣道部 九州選手権新人大大会 出場 ・サッカー部 全国高校サッカー選手権大会宮崎県予選 ベスト8 ・馬術部 宮崎県高校総体AクラスBクラス各第1位 団体第1位 全国九州地区予選 第5位 新人大大会 クロス・低障害 第2位3位 ・フェンシング部 総合体育大会 男子女子(s)各第1位2位3位 新人大大会 個人男子(s)第1位(f)第2位3位 女子(s)第1位2位3位 九州選手権個人 男子(s)第2位	4		
		ボランティア活動参加状況	・学校公認YouTuber「チーキーズ」が綾小学校へ出前授業 ・青少年の主張宮崎県大会 最優秀賞 ・国富町ふれあい短歌大会 最優秀賞 ・宮崎県高等学校総合文化祭書道部門 優秀賞			
国際理解教育	国際理解教育の推進	・シンガポール国際理解講座の実施(12月) 国際交流員によるシンガポールの文化や言語(シングリッシュ)などの講座(3年AF対象) ・モニターやスクリーンなどの増設による情報の見える化を推進 ・県外先進校視察研修による教職員のレベルアップ	3			
DXハイスクール	ICT教育推進	・HPブログ更新11回(R6:21回)・インスタ投稿32回(R7~) ・1日体験入学に中学生3名参加123名(R6:184名) 保護者参加90名(R6:147名) ・部活動1日体験入学に中学生50名参加(R6:60名) ・総合学科実践研究発表会に木脇中・八代中・綾中・高岡中生214名が参観 ・新聞や広報誌掲載約39回、TV放映約4回	2			
情報発信の充実	戦略的な学校情報発信	・HPブログ更新11回(R6:21回)・インスタ投稿32回(R7~) ・1日体験入学に中学生3名参加123名(R6:184名) 保護者参加90名(R6:147名) ・部活動1日体験入学に中学生50名参加(R6:60名) ・総合学科実践研究発表会に木脇中・八代中・綾中・高岡中生214名が参観 ・新聞や広報誌掲載約39回、TV放映約4回	3			

その他	PTAとの連携	PTAの活動	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA総会はオンラインで開催。二次集会を含めた出席率は80.2% ・いちいがし祭前の美化作業を実施し、48名の保護者が参加 ・普段手の届かないクローラー等、校内清掃を実施 ・PTA朝のあいさつ運動 9月～2月の期間に、月3日間実施、60名ほど参加 ・PTA新聞、年間3回発行 	4	3.7	<ul style="list-style-type: none"> ・PTAとの連携が図られており、今後も継続していただきたい。 ・本庄高校は、地域資源を活かした学びや生徒サポート体制の面で高い水準にあり、地域とともに歩む学校として確かな成長がみられる。 今後は、 ①生活習慣・美化活動の生徒主体化 ②ICT活用の定着と働き方改革の推進 ③学校の魅力発信の強化 ④探究型PBL学習の推進と地域連携の継続的・循環的な体系化 <p>が重要であり、これらを推進することで、さらに魅力ある学校へ発展することを期待する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いちいがし祭など協力的でした。 ・個人的な意見ですが、朝の通勤時等、すれ違い様に元気に挨拶してくれます。頼もしく思います。
-----	---------	--------	--	---	-----	---

4：十分達成・期待以上 3：概ね達成・ほぼ期待どおり 2：検討の余地あり・やや期待を下回る 1：不十分・改善を要する



分析及び改善策	<p>【学校運営評議委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本庄高校を更に魅力ある学校とするため、総合学科の特色を活かし、地域住民・行政と連携しながら目標に向かって実践していきましょう。 ・ホームページの卒業生ページを活用し、卒業生の活躍(声)を紹介することで、魅力アップにつながると思います。 ・教育課程については、十分な工夫が見られる。 ・本庄高校の学校運営協議会に、地域学校協働本部及び推進員が配置されることを期待する。 ・「主体的に地域の核となる生徒の育成」に係る今後の提案としては、徳島県の「心のサポートチーム方式」のように、週次のショートミーティングを導入し、支援スピード向上を図ることや、福井県の「朝読+スピーチ」のように、読書後の2分スピーチ等アウトプット機会を増やすことで学習効果を高められるのではないかと。 ・「指導力・専門性の向上」に係る今後の提案としては、佐賀県武雄高校の「ICTコーチ制度」を参考に、校内でICT支援を行う「ピアサポートチーム」の設置や、探究活動に企業人材を積極的に参画させることで、Honjo 学の学びをより社会と結び付けられるのではないかと。 ・「特色・魅力ある学校づくり」に係る今後の提案としては、奈良県で行われている「デュアル企業サミット」のように、協力企業との意見交換会を年1回の恒例化すると連携がさらに深化するのではないかと考える。 ・また、愛媛県の「地域共創探究マルシェ」を参考に、商品開発(めんま・焼き菓子)等を地域発信イベントに展開することができれば、本庄高校の魅力を県全体に発信することができるのではないかと。 ・今回初めて参加させていただきましたが、先生方の考え等も直接お聞きすることができ、また学校以外の方々の意見等もお聞きできこれからの本庄高校の期待が高く持てました。 ・県立高校離れが感じられますが、本庄高校の良さを地域とともにアピールできるように協力していきたいです。 ・寮については、遠くからせかく生徒が集まってきたので、保護者も安心して寮生活で良かったと思えるようにしてほしい。特に、スポーツする子どもの食はすごく大事であり、健康面も配慮して欲しい。 ・勉強面では、目標に向かっていけるようもう少し力を入れても良いのでは。 ・先生達も生徒達も活気があってすばらしい学校だと思いました。学校の良いところ、悪いところもどの高校もあると思います。地域連携もとれています。 ・学校運営協議会の委員をさせていただき、知らなかった学校のことが分かり、1人でも多くの生徒達が本庄高校に来てくれることを願います。 ・令和7年度の重点目標について (1) 主体的に地域の核となる生徒の育成 (2) 指導力・専門性の向上 (3) 魅力ある学校づくり ・どれも大事な要素だと存じますが、すぐに目標達成できるものでも無いと思います。■継続することの大事さ ・目標は高い方が、より頑張れると思います。大変なことだとは思いますが、目標達成できるよう、引き続いての学校全体で雰囲気盛り上げていただき、自己評価を高めていく努力が必要だと、この「評価表」から考えさせていただきました。 ・評価表からは、プロセス等、見えにくいのですが大変なご苦労があるのかと思います。 ・今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。 	<p>【学校】</p> <p>学校運営協議会(コミュニティ・スクール)は、本校の教育計画や教育課程の編成について意見をいただき、より良い形へと進めるための協議会である。本校においては、各系列の専門性を高める実習や課題研究、デュアルシステム実習等地域との連携は欠かすことができないものであり、地域連携が重要であるが、地域と連携するためにも、この協議会の果たす役割は大きい。</p> <p>その協議会委員の皆さまに、会議の度に大変貴重なご意見をいただき、大変ありがたい。本校の取組を理解し、本校がさらに良くなるためのご助言とともに叱咤激励をいただく機会となっている。</p> <p>令和7年度も、部活動やボランティア活動、技術検定、各種活動で大きな成果を出す生徒が多く、地域の方からも多くの応援や評価をいただいている。3年次生の進路実現の実績を見ても、一昨年度始めた Honjo 学の効果が大きいと自認してきたが、協議会でも評価をいただいた。</p> <p>Honjo 学導入にあわせ、校時程の変更や終礼の一部廃止等を行った。生徒のタブレットを使用した連絡とタブレット活用の定着を進めたかったが、生徒のタブレット管理に課題が多く、今後整理する必要があると感じている。</p> <p>くにとみ寮の運営に対しても御助言、御支援をいただき、感謝している。部活動の活性化には欠かせない存在であるので、これからもよりよい運営を目指していきたい。</p> <p>この学校運営協議会でいただいたご助言を励みに、さまざまな個性をもつ本校の生徒たちが、それぞれの良さを発揮し、自分に自信を持ち社会で活躍していけるよう、教職員一同今後も精進していきたい。</p> <p>昨年度までは、学校運営協議会は県内の県立5校の先行した取組であったが、今年度からは、全ての県立学校に導入された。また、来年度からは「業務管理・健康確保措置実施計画」、いわゆる職員の働き方改革の実現に関しても学校運営協議会を通じて取り組むことになる予定である。</p> <p>これまでの本校の実績をもとに、本校がより発展するよう、協議会委員の皆様には、引き続き御協力をお願いしたい。</p>
---------	--	--